

第1期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

山口大学

平成23年5月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（6項目）のすべてが「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、6項目のすべてが「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「「国際・キャリア・アップ・プログラム」を実施することにより、異文化理解を促進し、豊かな国際感覚をはぐくむ」について、海外短期語学研修制度を導入し、語学習得やホームステイ、文化体験を介して異文化理解を促進させ、参加者も多いことは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「卒業時点で十分なコミュニケーション能力の獲得を可能とする「TOEICを利用した修学システム」を充実させるとともに、言語教育の実施機能を充実させることによって、外国語の実践的コミュニケーション能力を向上させる」について、能力別クラス編成や学部・学科ごとに認定基準を定めて、英語のコミュニケーション能力を向上させる取組を行っており、TOEICスコアの平均点が上昇していることは、特色ある取組であると判断される。

② 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標 (17 項目) のうち、3 項目が「良好」、14 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、3 項目が「良好」、14 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「各研究科において、専門的職業人育成のため、実践的な内容を考慮したカリキュラムを編成する」について、技術経営分野では、ケーススタディを取り入れた実践的教育を実施したこと、また、知的財産分野では、知的財産教材の開発等、高い水準の教育を実施した結果、現代的教育ニーズ取組支援プログラムに採択され、知的財産に係る指導的教育者の養成に取り組んだことは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「地域社会の中で、学生が主体的・自主的に取り組んでいる活動や学内インターンシップなどを「自己発見育成授業」として実施する」について、学生グループが自主的に企画した特定のテーマを審査選考し、資金面等の援助を行う事業や共通教育科目として「地域と出会う～ボランティアと自主活動～」を開講し、ボランティア活動の単位化を行っていることは、学生の自主性を高揚させる点で、特色ある取組であると判断される。

③ 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標 (13 項目) のうち、1 項目が「非常に優れている」、1 項目が「良好」、11 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「非常に優れている」、1 項目が「良好」、11 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「学術情報機構は、教育活動基盤資料として、電子ジャーナルを含む教育基盤雑誌、データベース、教育基盤図書を計画的に整備し、教育情報提供機能の一層の充実に努める」について、教職員が教育的・専門的立場で選定した図書と学生の視点で選定した図書を効果的に購入するシステムを構築し、教育情報提供の充実に努めていることは、学生の学習環境の整備に寄与しているという点で、優れていると判断される。
- 中期計画「山口大学独自のワークショップを中心としたFD (Faculty Development) の内容と方法を確立し、FD 研修会の充実に努める」について、全学的FD 研修会の機能強化に、授業技術、教育評価及びメディア利用等のテーマごとのアラカルト方式を導入し、研修会の充実に努めたことにより、FD 研修参加者が増加したことは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「学術情報機構は、大学全体の情報基盤整備、情報化推進を戦略的に進める」について、事務組織の再編を行い、大学情報の流通マネジメント体制を一元化し、教育・学習等を行う上で必要な学術情報基盤の整備に対し、体制を強化したことは、情報化推進を戦略的に推進している点で、特色ある取組であると判断される。

④ 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標 (2 項目) のすべてが「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2 項目のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

- 中期計画で「「キャリア・デザイン支援プログラム」による教育を入学時から実施する」としていることについて、新入生を対象に共通教育科目として「キャリアデザイン」、また、2、3年生を対象に「キャリアと就職」を開講していることは、早い時期から学生に進路選択に関する意識を持たせている点で、特色ある取組であると判断される。

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「競争力があり今後の発展が大いに期待できる医工学、環境共生学および生命科学の分野を中心とした研究領域を支援する」について、医工学分野や医療関連分野の研究水準は、高いレベルにあり、特に環境共生学及び生命科学分野の研究組織を「スーパー研究推進体」等に選定し、戦略的に研究力の向上を推進していることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「人文・社会科学系と自然科学系との連携・融合や、地域の特色を活かした山口大学の独自領域を開拓し、支援する」について、時間学研究所の設置や「やまぐち学」を構築していることは、独自の文理融合型の研究や地域の特性を活かした研究を推進している点で、特色ある取組であると判断される。

② 研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（8 項目）のうち、2 項目が「良好」、6 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2 項目が「良好」、6 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

(優れた点)

- 中期計画「知的財産にかかわるデータベースを構築し、強い特許を創出する体制を整備する」について、「特許検索システム (YUPASS)」の構築や学生の特許インストラクターとして育成するシステムの開発等、新たな試みを積極的に実施していることは、優れていると判断される。

(Ⅲ) その他の目標

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1 項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

(参考)

平成 16～19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1 項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する

目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のすべてが「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2 項目のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

<特記すべき点>

（優れた点）

- 中期計画「国際協力機構等の東アジアを中心とした事業へ積極的に協力する」について、国際協力銀行と協力協定を締結したことにより、中国内陸部の人材育成事業を推進し、特に中国内陸部の現職教員に対する人材養成として、68 名を受託研究員として受け入れたことは、国際社会に積極的に貢献している点で、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「国際貢献に関する情報を収集、広報し、教育研究活動を支援する体制を整備する」について、「国際協力の里」基本構想を策定し、基本資料として「山大国際協力人財（材）BANK」を取りまとめ、「山口国際協力の里ネットワーク推進会議」や「国際協力活動推進プラットフォーム」を立ち上げて、積極的に開発途上国等に対する調査・研究を行っていることは、特色ある取組であると判断される。